総合医学会報告

2019年シンポジウム：「未来につなげる薬剤師の育成　－薬剤師教育の実践－」

交換研修による薬剤師育成

中川義浩†　髙島伸也*

第73回国立病院総合医学会
（2019年11月９日　於　名古屋）

IRYO　Vol. 75　No.　4（348－350）2021

要旨　国立病院機構九州グループでは平成28年度から薬剤師交換研修を開始した．１病院から各１名が参加しそれぞれ他院で研修に携わる．３年間の参加者は20名であり，アンケート結果より交換研修でよかった点として自施設にない業務や，未経験の診療科や急性期病院，政策医療での病棟薬剤業務，薬剤部門の薬務に関する業務，調剤機器，文書の運用方法，薬剤関連部門，チーム医療での業務が挙げられた．薬剤師交換研修は薬剤業務への理解を広げ，深めることを可能としており，薬剤師業務の質を向上させることが期待される．

キーワード　交換研修，薬剤師業務の質の向上，病棟薬剤業務

はじめに

国立病院機構は日本有数の病院グループであり，高度急性期や急性期・回復期，慢性期，終末期・がん医療に取り組み，その特色として充実した研修制度によるスキルアップや多職種でのチーム医療活動の推進，機構病院のネットワークによる情報交換，専門性を活かした研究，学会活動を行っている．国立病院機構九州グループでは平成28年度から九州グループ理事部門で独自に開催する専門研修として薬剤師交換研修（薬剤師実習技能研修）を開始した．

その目的は国立病院機構のネットワークを活かし，一定期間相互に職員を交換し，他病院において研修することにより，病棟薬剤業務の進め方[1)]や薬剤管理指導に携わる薬剤師の副作用の把握や資質の向上と均質化である．また，九州グループ内病院それぞれの特長を活かし，一定期間職員を交換することで相互に影響を与え合う関係を構築し，薬剤師の質的向上と均質化を目指す．さらに経験の浅い薬剤師が他病院の文化にふれ，職員と業務をともにすることを通じ，薬剤業務への理解を広げ，深めることを可能としている．

研修方法

対象者は国立病院機構九州グループ施設に勤務する主任薬剤師以下の薬剤師で所属病院長の推薦を受けた者とする．日程は11月の10日間とし，１病院から各１名が参加しそれぞれ他院で研修に携わる．研修内容は見学型・講義型のものばかりではなく，実際の臨床場面にスタッフとして関わり，他スタッフからの指導・助言を得ることも含む．なお，研修者はレポート，発表等の形式で研修病院および所属病院に研修の報告を行うこととする．

国立病院機構熊本医療センター　薬剤部（現所属：独立行政法人地域医療機能推進機構久留米総合病院）＊国立病院機構九州グループ　†薬剤師
著者連絡先：中川義浩　独立行政法人地域医療機能推進機構久留米総合病院　〒830-0013　福岡県久留米市櫛原町21番地
e-mail：nakagawa-yoshihiro@kurume.jcho.go.jp
（2020年３月２日受付，2020年11月13日受理）
Pharmacists Upbringing through Exchange Training
Yoshihiro Nakagawa and Shinya Takashima*, NHO Kumamoto Medical Center 1, ＊NHO Kyushu Group
（Received Mar. 2, 2020, Accepted Nov. 13, 2020）
Key Words：exchange training, improve the quality of pharmacist work, Inpatient pharmaceutical service

相談係	主任		主任		主任	主任	主任
1日目	項目	担当	2日目	担当	3日目	4日目	5日目
8:30-9:30 9:30-10:00 10:00-11:00 11:00-12:00 13:00-13:30 13:30-15:00 15:00-15:30 15:30-17:00	院内ラウンド 薬剤部内ラウンド ファーマロード操作説明 電子カルテ操作説明 注射調剤説明 注射鑑査 フリー（例；電子カルテ操作） フリー（例；明日からの病棟調査）	副薬剤部長 副薬剤部長 副薬剤部長 副薬剤部長 4年目以上	・病棟：救命/ICU ・病棟は各病棟担当者1名以上と同時期に行う（相談可能） ・AST参加 ・中央業務（主に注射調剤） ・緩和ケアチーム週1回	病棟担当者 病棟担当者 病棟担当者 AST担当者 中央業務： 4年目以上 緩和担当者	・2日目同様 ・薬剤師外来	・2日目同様 ・薬剤師外来	・2日目同様 ・手術室業務

相談係	薬剤師		薬剤師		薬剤師	薬剤師
6日目	項目	担当	7日目	8日目	9日目	10日目
8:30-9:30 9:30-10:00 10:00-11:00 11:00-12:00 13:00-13:30 13:30-15:00 15:00-15:30 15:30-17:00	・病棟：6北/CCU ・病棟は各病棟担当者1名以上と同時期に行う（相談可能） ・NSTラウンド参加 ・中央業務（主に注射調剤）を1日2時間を目安に行う。 ・緩和ケアチーム週1回	病棟担当者 病棟担当者 NST担当者 中央業務 4年目以上 緩和担当者	・6日目同様 ・NSTカンファレンス	・6日目同様 ・NSTカンファレンス	・6日目同様 ・手術室業務	・6日目同様、まとめ

図１　交換研修の研修スケジュール

研修病院に指導者を置く．研修内容の詳細は，研修者が決定した後，各病院研修指導者より，本人あて別途連絡する（図１）．研修者は研修先病院に併任とし診療報酬の請求を可能とした．

結　　果

平成28年度から平成30年度までの参加者は20名（男性14名，女性６名），経験年数は１-３年目17名，４-６年目３名であった．アンケートの全体評価はとてもよい80%，よい15%，どちらともいえない５％，あまりよくないと悪いは０％であり，研修内容はとてもよい47%，よい42%，どちらともいえない11％，あまりよくないと悪いは０％であった．研修時間は適当100%，時間が多すぎる，やや多い，やや少ない，時間が少なすぎるは０％であった．今後も同様な研修は必要と思うかは，全く無駄ととくに必要ないは０％，あってもよい15％必要50%必須35%であった．

研修者のアンケート結果（表１）では交換研修で学べてよかった点として，自施設にない病棟薬剤業務，持参薬鑑別や患者指導等の業務や，未経験の診療科，急性期病院，救命救急センター，心臓病・脳卒中救急センター，筋ジストロフィーなどの神経筋難病，重症心身障害，結核等の政策医療での病棟薬剤業務であった．また薬剤部門の薬務に関する業務や注射剤ピッキングシステム等の調剤機器，持参薬鑑別依頼書や再調剤依頼書等の文書の運用方法や薬剤関連部門の持参薬チェックセンター，予約入院センターでの薬剤師の業務，無菌製剤処理料，外来化学療法センター，外来患者服薬指導，感染防止対策や緩和ケア等のチーム医療，カンファレンスでの薬剤師の業務が挙げられた．また今後のスキルアップに向けた課題や，業務の取り組み方など自己研鑽に関する意見や，他施設に異動する際の参考になるといった意見もあった．

調剤や薬剤管理指導業務を実践することで改善点がわかったり，臨床推論が可能となった．また他の薬剤師の薬剤管理指導をみることができてよかったといった意見もあった．

改善が望まれる点として業務の引き継ぎや研修スケジュールがわからず，準備ができなかった，自施設のチーム医療の状況を把握できていなかったという意見があった．

考　　察

国立病院機構は高度急性期病院や政策医療があり，薬剤師業務も多岐にわたる．研修者は研修先病院に併任とすることで，診療報酬の請求も可能となり参加しやすくなったが，短期間での業務の引き継ぎなど改善が必要と考えられた．

国立病院機構のネットワークを活かし相互に職員を交換し，お互いの調剤業務や薬剤師外来業務，薬剤管理指導，病棟薬剤業務を互いに評価することで，改善点が把握できた．薬剤師交換研修は薬剤業務への理解を広げ，深めることを可能としており，薬剤師業務の質が向上することが期待される．

〈本論文は第73回国立病院総合医学会シンポジウム「未来につなげる薬剤師の育成　－薬剤師教育の実践－」において「交換研修による薬剤師育成」として発表し

表１　研修者のアンケート結果

交換研修で学べてよかった点
（病棟薬剤業務や薬剤管理指導）
病棟薬剤業務、持参薬鑑別や患者指導　10件
産科、精神科などの診療科や疾患　10件
急性期病院、救命救急センター、心臓病・脳卒中救急センターを経験できた　10件
筋ジストロフィーなどの神経筋難病、重症心身障害、結核等の政策医療　４件
（薬剤部門）
薬剤部の医薬品の管理・運用方法　４件
自施設にない機器（注射剤ピッキングシステム等）　２件
持参薬鑑別依頼書や再調剤依頼書などの運用方法　２件
処方箋への記載事項（臨床検査値、アレルギー歴）
（薬剤関連部門）
持参薬チェックセンター、予約入院センター　３件
退院時多職種連携会議での薬剤師の業務　３件
（無菌製剤処理料）
抗がん薬閉鎖式システム、中心静脈栄養の無菌調製　３件
（外来化学療法加算）
外来化学療法センター　３件
（外来患者服薬指導等）
HIV患者への薬剤管理指導、薬剤師外来　３件
（感染防止対策）
チーム医療、カンファレンスでの薬剤師の業務　７件
（緩和ケア）
緩和ケア回診
（その他）
今後のスキルアップに向けた課題を見つけることができた
今後は自分が各施設で何ができるのか考えながら業務に取り組んでいきたい　２件
異動の不安がなくなった　２件
少人数で効率よく業務を行うことが経験できた
小規模施設は他部署との距離が近く連携が重要であることがわかった
施設毎に薬剤師業務が異なり大変勉強になった　４件
チーム医療全般に参加し、今後の業務を行う上で大変参考になりました　２件
講義だけでなく実際に調剤や薬剤管理指導業務を行い実践的な力が身に着いた　４件
病棟薬剤業務を互いに見て評価することで改善点や臨床推論が可能となった　４件
他の薬剤師の薬剤管理指導を見ることで、疑義照会の要点を学ぶことができた　２件
臨床場面にスタッフとして関われた　３件
研修先の薬剤師、医師や多職種の方に手厚く指導していただいた　２件
研修で学んだことを今後の業務に取り入れていきたい
自分を見つめなおす機会となった

改善が望まれる点
遠方であり交通の便が悪かった
交換研修で業務の引き継ぎが難しかった
担当業務が多く他業務の研修ができなかった
薬剤管理指導の件数が増えなかった
研修スケジュールや内容等がわからず事前の準備ができなかった　２件
あらかじめ業務内容や内規について学びたかった
調剤機器の操作に慣れることができなかった　３件
事前に製剤業務や薬剤の発注等のやり方を学びたかった
研修先の施設のチーム医療に参加する場合、自施設の状況を把握する必要があった

た内容に加筆したものである.〉

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし.

［文献］

1）(一社)日本病院薬剤師会．薬剤師の病棟業務の進め方（Ver.1.0）．日病薬師会誌　2012；**48**：S６－１－S６－６.